

昭和55年に養浜事業着手。背後地の再開発整備とともに周辺と調和のとれた民間の施設整備も進捗。



白良浜は和歌山白浜町の鉛山湾に位置し、紀伊水道に西面するポケットビーチである。

平安の頃より和歌に詠まれるなど、

人々のあこがれの浜であり、また沖を



航行する船の目印でもあった。

この浜を訪れる文人も多く、浜の南端には中村憲吉の詠んだ「紀の国のいでゆの浜に尻をつれ来 すみれを摘むも冬と思わず」の歌碑が建つ。

データボード④7

- ① 和歌山県白浜町
- ② 白浜町役場 ☎0739-43-5555
- ③ 汀線620m、海浜幅100m
- ④ 養浜工、突堤工、離岸堤工、ほかに隣の湯、湯崎海岸整備等
- ⑤ 白浜夏まつり、白良浜海上花火大会

町では、町名のもととなったこの浜を誇りとし守り育てるため、京都大学の調査に基づき、昭和五五年に養浜事業に着手した。これにより白色砂岩の補給養浜を、おもに侵食防止の突堤や離岸堤、緩傾斜堤建設などが行われ、観光白浜のシンボルとなっている。

また現在、背後地における街路事業、駐車場整備などと相まって、リゾートホテルなど周辺と調和のとれた民間の施設整備も進みつつあるほか、今後は新南紀白浜空港のジェット化（第五次空港整備計画）などにより、観光の中心として一段と発展することが期待されており、地元においても、「いきいき紀州活力白浜推進協議会」による様々なイベントが行われている。